

第22回日中経済文化講座

戦争の傷跡残る町・南京生活で出会った「老百姓」たち

当協会経済文化交流部会（部会長 村田忠禧協会副会長）主催の第22回日中経済文化講座が1月9日かながわ県民センターで開催された。参加者は約50名。

講師は当協会理事で大和地区日中友好協会事務局長の鈴木征四郎さん。鈴木さんは出版・編集の仕事を中心に11年間、南京の5つの大学の日本語教師として活躍された。

講演は、この間の老朋友



講師の鈴木征四郎さん

（友人）を通して見た中国社会や見えてきた中国社会の変容、日中友好を進める上での考え方 という3つのテーマに沿って進められた。

初めに、親交を深めた多くの友人のエピソードなどを紹介しながら、例えば「改革開放」、「先富論」、「愛国有理」などの言葉を挙げながら中国社会について話された。

特に印象的な話としては、南京農業大学内の理髪店の主人が初対面の客の鈴木さんに対し、「南京大虐殺をどう思うか？」と興奮して迫ってきたシーン。鈴木さんは「貴方は毛主席や周総理など建国の指導者を尊敬しているでしょう。あなたたちは、戦争を主導したのは日本の一部の軍国主義者であって、一般国民には責任がないと言っています。私は、大虐殺記念館での12月13日の平和集会には毎年参加して犠牲者を追悼しています」と答えたところ、理髪店の主人は納得、感謝し、お二人はその後も親交を深めたそうだ。

「最近の中国社会の変容」では、余裕のある中産階級が増えていることやマナーやモラル改善の兆しが見えてきたこと、情報化の進展に伴い権利意識が台頭していることなどを話された。

「黎明」創立30周年演奏会に寄せて

2015年12月2日 横濱みなとみらいホールで日中友好・女声合唱団「黎明」創立30周年記念／第10回演奏会が開催された。

「黎明」は1985年に、前身である日中友好お母さんコーラス（日本横濱日中友好女子激光演唱団）訪中団が上海公演を実現：横浜・上海友好都市間における民間交流の一環として、高い評価を受けて結成された。以来「日中友誼・万古長青」

2013年、団長であり指揮者の日置宏江さんが病に倒れ帰らぬ人となったが、団員は深い悲しみを力に換えて、華麗に展開してくれた。

プログラムのI部「The黎明Show」、ミュージカルナンバーやお馴染みの早替わりパフォ

I マンス。II部「中国の歌」では、瀋陽出身オペラ歌手の鍾皓さんのバス・バリトンに魅了し、III部「サウンドオブミュージック」は名曲を揃えて沸かせた。終演には子供達のミュージックベル演奏も登場し、舞台と観客が一体となった最高の公演に深く感動した。

これまでの道のりは決して平坦なものではなかったが、35、40周年に向けて、私達はまだまだ“エンジェル”達の前途に期待する。

（県日中・松山 邦彦）

「今後の日中友好の考え方」では、交流を通してお互いに違いを知ることが大切。今後の日中関係は、しっかりと歴史認識の上に未来志向のパートナーシッ

プを築く必要があり、民間交流がますます大きな役割を果たさざるうとされた。

太極拳講座（4月生募集）

毎週水曜日 10時30分～12時
 [場所] 地球市民かながわプラザ
 [講師] 池田 雅子先生（楊名時太極拳・八段錦準師範）
 [受講料] 一般13,000円 全10回
 協会会員・他講座受講者 12,000円
 [入会金] 2,000円 協会会員・他講座受講者無料
 [お問合せ先] 当協会事務局 電話045 (896) 0124